

「朗・礼・勇」の精神を 礎に



札幌市消防局長 岡本 征仁

札幌市は、大正11年に市政を施行し、昭和47年に政令指定都市へ移行、現在は人口197万人が暮らす大都市に発展を遂げており、令和4年には市政100周年、政令指定都市移行50周年という大きな節目の年を迎えます。

この節目を迎えるに当たり、札幌市では、次の100年を見据えたまちづくりを進めており、人口減少や超高齢化社会の到来を見据えながら、魅力と活力を創造し続ける街であることを目指しております。また、2030年度に北海道新幹線の札幌延伸が予定されていることに伴う札幌駅周辺の交流拠点の整備のほか、札幌市の周辺市町村との連携協約による様々な事業により、北海道経済全体をけん引していくための取組も進められています。

消防の施策においても、昨年度に札幌市消防学校に整備した「実火災訓練装置」を活用した周辺市町村との合同研修や、周辺6消防本部（8市町村）で共同整備し、令和7年度に運用開始を予定している（仮称）札幌圏消防共同指令センター」の設置など、連携の取組を進めているところであり、次の時代を見据えながら事業を展開しているところです。

昨年から引き続く、新型コロナウイルス感染症については、札幌市においても感染拡大の大きな波を経験し、陽性患者の移送業務をはじめ、職場における感染防止対策の構築や陽性職員発生時の消防体制の維持方策など、これまでに経験したことのない危機対応が求められ、計画していた事業についても実施方法の変更などを余儀なくされたところです。

そうした意味では、消防の業務においても「新しい行動様式」が求められており、職員一人ひとりが「未来志向」を持ち、前例踏襲の打破や発想の転換により、業務改善や新しい仕事の形を作っていくことが、この危機を乗り越えるモチベーションにも繋がっていくものと考えております。

今年は、昨年延期となった「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」が開催されます。札幌市においてもサッカー、マラソン、競歩の各種目が行われることから、消防対策を検討するための「消防対策会議」を局内に設置したほか、関係機関や北海道内の消防本部との連携・協力を図りながら、万全の準備を進めているところです。また、札幌市では、2030年の冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の招致を目指しており、今夏の大会の成功により、世界に向けて、札幌市が安全・安心な都市であることを発信することが出来るものと考えております。

最後に、札幌消防には「朗・礼・勇」という局訓があります。これは昭和62年に制定したもので、消防職員に求められる基本姿勢として「明朗」「礼節」「勇気」を表しており、消防局庁舎の玄関には、これをイメージしたモニュメントが飾られています。（円形は「明朗」なチームワークの和を、正方形は「礼節」の重さを、そり形は「勇気」ある双腕を型どっています。）時代の転換期にあっても、札幌消防の職員として、この精神をいつも心に留め、常に市民から信頼される組織として発展することを目指してまいります。

